

格闘技団体の分裂と統合に関する研究

A study of splits and integration in martial arts organizations

1K07B237-4 渡邊結花

指導教員 主査 作野誠一 先生 副査 太田章 先生

【研究背景及び目的】

肉体そのもののぶつかり合いである格闘技は、多くの人々を魅了する。格闘技は老若男女が楽しめるコンテンツであり、文字通り「最強のスポーツ」である。

筆者は、スポーツ組織論を学ぶ中で、格闘技団体の数の多さに疑問を持った。また、それらの団体が分裂や統合を繰り返しながら存続してきたという点に注目し、格闘技団体には、分裂や統合という動きが起りやすいという性質があるのではないかと考えた。そして、格闘技の団体が分裂や統合を繰り返しながら存続し、団体が細分化されたことが、格闘技界の混沌とした世界を作り出し、一般の人にとってのわかりにくさを助長しているのではないだろうか。またそれが、新たなファンを獲得しづらくしている大きな要因ではないかと筆者は考えた。

また、団体が細分化され様々な利害が絡み合う格闘技界においても、格闘技界を盛り上げていくためには団体の垣根を越えた「大同団結」が必要である。団体同士の協働がなければ、格闘技界全体は存続しえない。このような問題を考える上でも、格闘技団体の分裂と統合について研究し、格闘技団体の特性を知ることが有意義である。

さらに、団体が乱立する格闘技界には、団体の元締役となるような統括組織が必要である。団体が分裂や統合を繰り返しながら存続してきた格闘技界で、統括組織の果たすべき役割について言及し、これからの格闘技界における統括組織の在り方を提言したい。本研究を通して私の愛する格闘技界のさらなる発展に寄与することを目的とする。

【研究方法】

本研究では、まず、組織間関係論と組織心理学の理論的媒体から、組織が分裂・統合する要素を明らかにする。さらに、格闘技団体の中から、プロレス、キックボクシング、総合格闘技を取り上げ、それらの分裂の歴史とその背景を文献やウェブページ、雑誌記事等を参考に明らかにする。そしてその結果から、格闘技団体の分裂と統合に関して組

織論の観点から分析を行い、格闘技団体における分裂と統合に関わる要因について検討した。

また、本研究では、格闘技界の大同団結を企図とする先進的な取り組みと、格闘技の統括組織としての現状を調査するために、日本格闘技連盟の関係者に面接調査を行った。

【結果と考察】

組織の分裂には、成員性、コミットメント、コンフリクト、組織変革という要素があることが分かった。これらは、格闘技団体の分裂要因にも当てはまる要素であった。特に、金銭を巡る利害対立や人的トラブルによるコンフリクトが格闘技団体の分裂を招く一番の要因になっていることが明らかにされた。また選手の引き抜きなどによる裏切り行為や、自分たちの理想とする格闘技スタイルを実現するために新しい団体を立ち上げるという点は、格闘技独特の要因といえる。

さらに、格闘技の団体は他団体との間に選手という資源の依存関係が存在すると共に、協同の必要性から他団体との関係を結んでいくということが明らかになった。このことが、統合や提携という協働関係に繋がっていると考える。

様々な利害が絡み合い、それぞれの世界観が存在する格闘技界において、団体が一つにまとまることは難しい。しかし、これからの格闘技界においても、団体同士が共存・共栄していかなければならない。そのためにも、団体の内部や団体間に起きる諸問題を解決していく第三者機関の存在が必要であると考え。コンフリクトを解決する手段を持たなかったことが、団体が分裂し、細分化してきた要因だからである。また、個々の団体がバラバラになって活動しているだけでは、格闘技界のさらなる発展は望めない。よって、単発のイベントであったとしても、団体同士の協働や大同団結がこれからの必要になってくるであろう。第三者機関の規制や監視によって、団体同士のバランスを保ちながら協力しているような体制を築いていくことが、これからの格闘技界の課題である。